

ニュース

LEVO

2012
春号
NO. 49

Organization for the Promotion of Low Emission Vehicles



組織名の変更並びに役員選任のご挨拶
平成23年度 第2回評議員会及び理事会の開催
平成24年度 低公害車普及促進対策費補助金制度の概要
大型天然ガストラックの普及推進事業が本格的スタート
新設天然ガススタンド情報
エコドライブ診断を活用したトラック事業協同組合に
おける省エネ化推進事業の実施結果

お客さま訪問 (CNG車導入)
株式会社山里物流サービス

お客さま訪問 (電動フォークリフト導入)
大和陸運倉庫株式会社

LEVOからのお知らせ

★一般財団法人運輸・交通SAS対策支援センターが発足



一般財団法人
環境優良車普及機構

*平成24年4月1日から名称が変わりました

組織名の変更並びに役員選任のご挨拶

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引立てを賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、財団法人運輸低公害車普及機構は、この度、政府の公益法人改革の一環として本年4月1日より一般財団法人に移行することとなりました。これに伴い、名称も「一般財団法人環境優良車普及機構」に変更するとともに、これまでの環境対策だけでなく、交通の安全も含めた幅広い事業運営を行えるよう定款も改めることといたしました。なお、英文の略称は、今後とも引き続き「LEVO」とさせていただきますので、宜しく願いいたします。

一般財団法人に移行いたしましても、これまで同様、環境優良車普及促進事業、環境・省エネ機器普及事業、調査研究事業、国際協力事業等の推進に全力をあげて取り組んで参りますとともに、自由度の高まった事業運営を通じ、より一層皆様方のご要望に幅広くお応えして参る所存でありますので、ユーザー及び関係機関の皆様方の新法人「環境優良車普及機構」への変わらぬ御理解、御支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

敬 具

－ 記 －

| | | | |
|-------|--|---------|-------|
| 新組織名 | 一般財団法人 環境優良車普及機構 (旧組織名 財団法人 運輸低公害車普及機構) | | |
| 代表理事等 | 代表理事 (会長) | 寺 嶋 潔 | (留 任) |
| | 代表理事 (理事長) | 上 田 信 一 | (留 任) |
| | 業務執行理事 (常務理事) | 秋 元 豊 | (留 任) |
| | 業務執行理事 (常務理事) | 高 田 寛 | (新 任) |
| 住 所 | 東京都新宿区四谷二丁目14番8号 YPCビル | | |
| 電 話 | (03) 3359-8461 | | |
| F A X | (03) 3353-5439 (住所・電話番号・FAX番号等に変更はございません) | | |



一般財団法人
環境優良車普及機構

平成23年度 第2回評議員会及び理事会の開催

平成24年3月19日（月）当機構6階会議室において、平成23年度第2回評議員会及び理事会が開催され、一般財団法人への移行後の最初の「理事及び監事の選任」、「役員の選任」、「平成24年度事業計画及び収支予算」及び「平成24年度長期借入金」について審議が行われ、原案どおり承認されました。（事業計画の主な概要は下記のとおり。）



平成24年度事業計画概要

〔平成24年度事業の基本的方向〕

平成24年度は、国の施策とあいまって、引き続きCNG車、電気自動車等の環境優良車やEMS機器、電動フォークリフト等の環境・省エネ機器の普及施策を着実に進めていくとともに、エコドライブの推進、各種実証実験事業等への支援など自動車運行のソフト面からもバックアップすることによって、自動車環境対策をより総合的に進めていくこととする。これらの事業の推進に当たっては、自動車運送事業者の厳しい経営環境を踏まえ、当機構自らより一層の収益性、効率性に務める。以上のような基本方針の下、平成24年度は具体的に以下の事業を推進します。

平成24年度新規・重点事業

1. 大型CNG車実証実験事業

日本ガス協会より受託し、平成23年12月にスタートした大型CNG車実証実験事業（大型CNG車のリース、運転状況や燃費等の分析など）を引き続き実施します。（関連5頁）

2. 商用EV（電気自動車）の普及促進

平成24年度に大幅に拡充された国土交通省の助成制度に適切に対応し、LEVOリースによる集中的導入、助成の為の事業計画策定支援を行い、環境優良車の普及促進を図ります。（関連3頁）

3. LED（高効率照明設備）リース事業

新たに高効率照明設備等環境・省エネ設備のリースを行うこととし、「省エネ支援事業」の公募があればこれに応募し、自動車運送事業者の車庫、倉庫その他の施設におけるこれら照明設備の普及促進を図ります。

4. SAS検査事業への支援

東京大学医学部付属病院の指導・協力の下にSAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニング検査を実施する「（一財）運輸・交通SAS対策支援センター」に対し、所要の支援を実施します。（関連13頁）

5. エコドライブ総合診断

平成23年度に経済産業省の「低炭素型自動車交通推進事業補助金」を活用して、北海道のトラック事業協同組合との連携により実施した、同組合傘下の事業者におけるエコドライブ総合診断を引き続き積極的に対応していきます。（関連8頁）

6. 貨物自動車用ドライブレコーダ選定事業

全日本トラック協会のドライブレコーダ助成事業を支援するため、平成23年度策定した「貨物自動車専用ドライブレコーダ選定ガイドライン」に基づき助成対象機器選定作業を実施します。

7. その他

IEAの自動車用先進燃料に係る国際研究へ参画、23年5月に採択された「バイオ燃料貨物自動車の路上走行時の排ガスに関する研究（第2期）」に関する（独）交通安全環境研究所との共同提案研究事業を推進します。

当機構の有する排ガス調査、燃料測定等に係るノウハウを活用して、各種実証実験事業等に積極的に対応していきます。

自動車環境講座の開催、各種イベント等への参画など広報・啓発活動を推進していきます。平成24年度は、上記事項を基本に具体的な取り組みを実施することとしています。

平成24年度 低公害車普及促進対策費補助金制度の概要

自動車運送事業者を対象とした平成24年度の国土交通省の低公害車普及促進対策費補助金制度の概要は、改正点など以下のとおりとなっています。

これまでのCNG車及びハイブリッド自動車に関しては、名称を「環境対応車導入事業」と改め、また、電気自動車に関しては「地域交通グリーン化促進事業」として補助事業が一本化され、それぞれの車両において導入を図る自動車運送事業者には、補助金が交付されます。

★制度改正の概要

| 前年度 | | 平成24年度 | |
|---|---|---|--|
| 低公害車導入事業 [予算額：1,038百万円] | | 環境対応車導入事業 [予算額：774百万円] | |
| 補助対象 | 補助率 | 補助対象 | 補助率 |
| CNG トラック・バス | ○通常車両価格との差額の1/3 又は車両本体価格の1/4 ○小規模事業者に対しては 通常車両価格との差額の1/2 又は車両本体価格の1/4 ※原則としてトラックは単年度に3台以上 導入（グリーン経営認証等取得している 場合は1台からの購入を認める） | CNG トラック・バス | ○経年車の廃車を伴う新車購入の場合 通常車両価格との差額の1/2 又は車両本体価格の1/4 ※経年車は9年以上の車両（長期規制適合 車以前） ○新車だけの購入の場合 通常車両価格との差額の1/3 又は車両本体価格の1/4 ※原則としてトラックは単年度に3台以上 導入（廃車を伴う新車導入又はグリーン 経営認証等取得している場合は1台から の購入を認める） |
| ハイブリッド トラック・バス・ タクシー | | ハイブリッド トラック・バス | |
| 使用過程車の CNG車、電気自 動車への改造 | 改造費の1/3 | 使用過程車の CNG車への改造 | 改造費の1/3 |
| 電気自動車 (PHVを含む) | ○通常車両価格との差額の1/2 又は車両本体価格の1/4 | | |
| 公共交通グリーン化促進事業 [H22補正予算額：450百万円] | | 地域交通グリーン化促進事業 [予算額：206百万円] | |
| 補助対象 | 補助率 | 補助対象 | 補助率 |
| 電気自動車 (バス、タクシー) (PHVを含む) | ○車両本体価格の1/2 タクシーについては1/3 | 電気自動車 (バス、タクシー、 トラック) (PHVを含む) | ○車両本体価格の1/2 タクシー・トラックについては1/3 |
| 電動バス向け 充電設備 (普通・急速) | ○バス：導入費用の1/2 (工事費用含む) | 充電設備 (普通・急速) | ○バス：導入費用の1/2 ○タクシー・トラック：導入費用の1/3 ※専ら事業用自動車の充電に限る。 ※原則、工事費用含まない（IPS給電装置 を除く）。 |

* 地域交通グリーン化促進事業

3大都市圏、観光地、環境未来都市等の地域において、他の地域や事業者による電気自動車の導入を誘発し、急速に普及が伝播するような計画を外部有識者により評価し、優れた計画を選定して支援。（詳細は、LEVO 環境優良車普及部 03-3359-9009までお問い合わせください。）

★環境対応車に係る補助金申請について

○申請方法

1) 交付予定枠内定方式

環境対応車（CNG及びハイブリッドのトラック・バス）の導入予定事業者は、交付予定枠の申込書を「使用の本拠の属する地方運輸局又は地方トラック協会」に提出する。

[交付予定枠の申込期間 平成24年9月1日～平成24年9月30日]

申込期間内に交付予定枠の申込みを行い、内定を受けなければ補助金申請はできませんのでご注意ください。

2) 補助金申請

通常申請 ①対象車両 平成25年1月1日～平成25年3月31日までに補助事業が完了するもの

②受付期間 平成24年11月1日～平成24年11月30日まで

実績申請 ①対象車両 平成24年4月1日～平成24年12月31日までに補助事業が完了するもの

②受付期間 補助事業が完了した日から30日以内

ただし、平成24年10月31日までに補助事業が完了したものは、平成24年11月30日まで

| | |
|----------|---|
| 補助事業の完了日 | ◇経年車の廃車を伴う新車導入の場合（経年車とは平成24年度中に初度登録日から9年以上経過する自動車） 新車の登録日または経年車を廃車するために引取業者に引き渡した日のいずれか遅い日 |
| | ◇新車のみ導入の場合 新車の登録日 |

○補助対象車両の要件

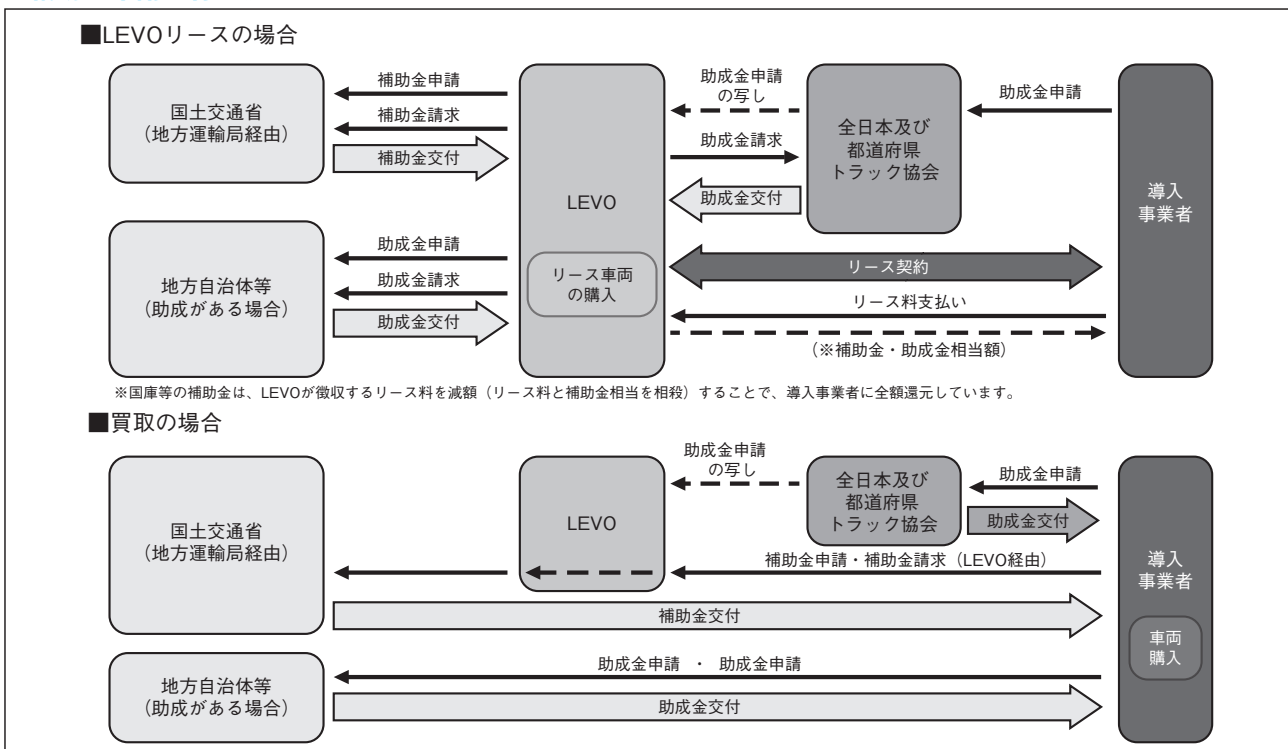
1) 協調補助要件

自治体、トラック協会等の協調補助要件が適用される。

2) 3台要件

単年度3台以上導入することが求められます。ただし、LEVOリースを利用される場合は1台から可能です。また、経年度の廃車を伴う新車導入の場合やグリーン経営認証、全日本トラック協会による貨物自動車運送事業安全性評価事業に基づくGマーク認定、国際標準規格ISO 9001、ISO 14001認証を取得している事業者は、台数要件が免除されます。

○補助金申請受付の流れ



大型天然ガストラックの普及推進事業が本格的スタート



LEVOでは、大型天然ガストラック（GVW 25トン）の普及促進を図るため、一般社団法人日本ガス協会から「大型天然ガストラックの普及推進事業」における実証事業を受託し、平成23年12月から平成26年3月までの3ヶ年度にかけて実証調査を実施しています。

第一陣として、平成23年12月から2台のモニター車を使用した第1次実証調査が、平成24年3月に完了しました。

引き続き、3月から1台増して3台のモニター車を使用した第2次実証調査がスタートし、いよいよ当事業の本番を迎えました。これに先立ち、広く大型天然ガストラックと同普及推進事業をPRするため、関係者が集まり出発式が開催されました。



【第1次実証調査】

有限会社ヤマコン、大同貨物株式会社の2社がモニター企業となり、第1次実証調査が実施されました。

2社ともモニター車を運転したドライバーによると「振動が少なく騒音は静かである。」「排出ガスの色や臭いが全くなかった。」「充填時間は15分くらいでスムーズであった。」など概ね好評でした。

この第1次実証調査データと分析結果は、日本ガス協会に報告が行われています。

【出発式の開催】

第1次実証調査の後、3月からヤマト運輸株式会社、サントリーロジスティクス株式会社、佐川急便株式会社をモニター企業として、3台の車両を使用した本格的な実証事業が開始されました。

これに先立ち、大型天然ガストラックへの理解を深め、広くPRすることを目的に、日本ガス協会主催（東京ガス株式会社協賛）による『大型天然ガストラックの普及促進事業出発式』が、3月14日に「ガスの科学館（東京・豊洲）」において、ガス事業並びに運送事業関係者と大勢の報道関係者を集め開催されました。

出発式では、主催者、ご来賓の挨拶に引き続き、LEVOの上田理事長からモニター企業3社にキー贈呈を行いました。その後、3台並んだモニター車を背に関係者によるテープカットが行われ、モニター車それぞれを送り出しました。

【第2次実証調査の概要】

第2次のモニター企業のうち、ヤマト運輸株式会社の車両は3軸高床式で、実証調査期間は1年と長期にわたります。

サントリーロジスティクス株式会社及び佐川急便株式会社の車両は、いずれも4軸低床式で、期間は6ヶ月が予定されています。

第2次実証調査の概要

| | 1号車 | 2号車 | 3号車 |
|----------|-----------------|---------------------------|-----------------|
| 車輛型式 | LKG-CYL77A改 | LKG-CYJ77A改 | LKG-CYJ77A改 |
| 駆動方式 | 3軸高床ウイング車 | 4軸低床ウイング車 | 4軸低床ウイング車 |
| 最大積載量 | 12,300kg | 13,300kg | 12,800kg |
| ボンベ容量 | 793.0L | 721.0L | 821.0L |
| 運行先 | 東京・品川⇄群馬 | 埼玉・草加⇄群馬・栃木・神奈川・山梨等を2～3往復 | 東京・江東⇄山梨 |
| 予想運行距離/日 | 約270km | 約300km | 約300km |
| モニター先 | ヤマト運輸株式会社 | サントリーロジスティクス株式会社 | 佐川急便株式会社 |
| 実証実験期間 | 平成24年3月～平成25年3月 | 平成24年3月～平成24年9月 | 平成24年3月～平成24年9月 |

(以上文・表中敬称略)



[1号車]



[2号車]



[3号車]

新設天然ガススタンド情報

☆北海道と岡山で新規オープン! ☆

○樽川SS天然ガススタンド

石狩手稲通に面したENEOSガソリンスタンドに併設されています。

設備架台を2階建てにして、主要機器を上部に配置したレイアウトでスペースを有効利用し、大型車の充填にもスムーズに対応します。

所在地 : 北海道石狩市樽川3条1丁目28
(ENEOSチャレンジ樽川SS内併設)

TEL : 0133-73-8848

営業時間 : 月～金 6:30～21:00

土 6:30～21:00

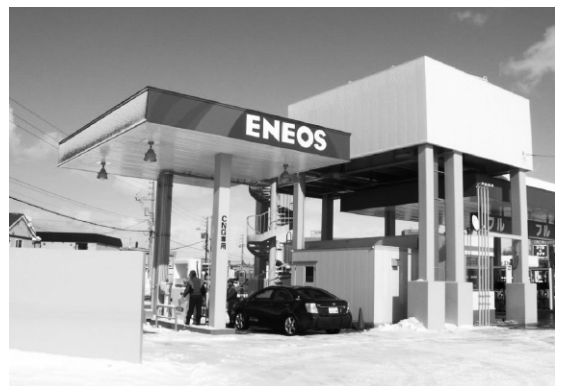
日・祝 8:00～19:00

能力 : 圧縮機 能力 $320\text{Nm}^3/\text{h} \times 2$ 基

蓄ガス器 250L \times 5本

マルチ型ディスペンサー \times 1

(2台同時充填可能)



○岡山トラックターミナル天然ガススタンド

岡山バイパス沿いにある岡山県トラックターミナル内のマルケー商事給油所に併設され、最新の設備、機器によりターミナル内の事業者をはじめ、都市間輸送の拠点スタンドの役割を担う岡山県内3施設目の天然ガススタンド。

所在地 : 岡山県岡山市中区倉富285-3

(岡山県トラックターミナル内)

TEL : 086-277-4017

営業時間 : 月～金 7:30～19:00

土 7:30～19:00

日・祝 8:00～18:00

能力 : 圧縮機 能力 $250\text{Nm}^3/\text{h} \times 2$ 基

蓄ガス器 250L \times 10本

ディスペンサーユニット \times 充填ノズル2口

(2両同時に充填可能)

* 充填のPOSシステムは他の2施設と互換性をもつ。

右のQRコードを、QR対応の携帯電話で読み取ればモバイル天然ガスサイトのURLが表示されます。



エコドライブ診断を活用したトラック事業協同組合 における省エネ化推進事業の実施結果

LEVOは、日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会北海道地域本部に所属する6つの事業協同組合が、公益社団法人全日本トラック協会の平成23年度低炭素型自動車交通推進事業費補助金を活用して実施している「エコドライブ診断を活用したトラック事業協同組合における省エネ化推進事業」において、エコドライブ総合診断、講習会実施、燃費データ・分析等を受託し、昨年9月から今年の1月末まで事業を実施しました。

にエコドライブの実践方法を講習しました。



<事業実施概要>

参加協同組合：日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会北海道地域本部傘下の6協同組合（ネットワークフレンズ札幌協同組合、ネットワーク札幌協同組合、ネットワーク旭川協同組合、ネットワーク苫小牧協同組合、ネットワーク道央協同組合、ネットワーク空知協同組合）

省エネ目標値：参加した協同組合は、日頃から積極的にエコドライブを実施しているので、燃費向上率2%を目標としました。

エコドライブ総合診断：参加事業者のうち2社の代表的な使い方をする車両各1台（計2台）についてエコドライブ総合診断を実施しました。

エコドライブ講習会：2回実施
協同組合が主催するエコドライブ講習会において、LEVOが講師となって、エコドライブ総合診断の結果やLEVOがこれまでに蓄積したノウハウなどを基

実証試験：講習会の指導を踏まえて営業走行でエコドライブを実践し、2ヶ月間の給油量及び走行距離を記録。LEVOはそれらのデータを分析し、燃費および燃費向上率を評価しました。

〔実証試験の概要〕

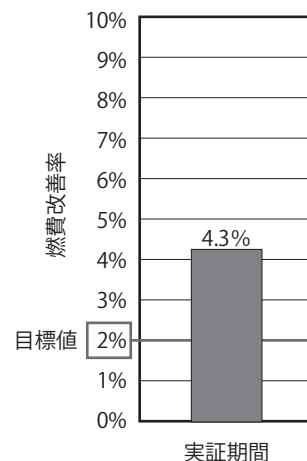
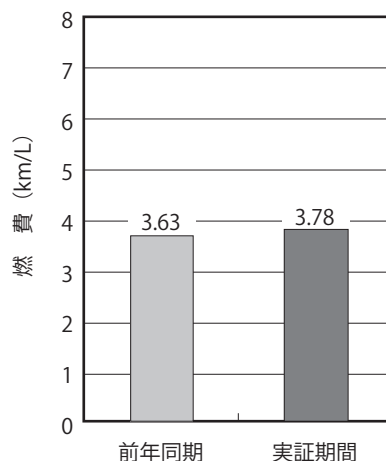
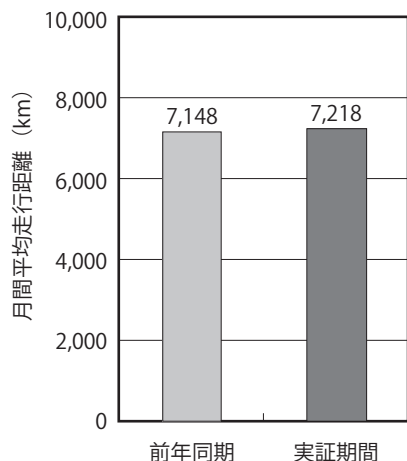
- ・参加事業者数：38社
- ・参加車両台数：124台
- ・実証走行エリア：札幌市を中心とする北海道全域
- ・実証期間：平成23年10月16日～12月15日

<実証試験結果>

前年同月の平均燃費：3.63km/L
 実証期間の平均燃費：3.78km/L
 燃費向上率：4.3%

参加事業者のエコドライブのさらなる熱心な取り組みにより、目標（2%）を大幅に越える燃費改善率を達成することができました。実証試験終了後も1年間、燃費データ・分析等を実施していく予定です。

実証試験結果



株式会社山里物流サービス

《大阪府八尾市》

代表取締役

山下 和彦 氏 に聞く



聞き手：財団法人運輸低公害車普及機構
低公害車普及部 調査役
原田 訓男
関西地区担当
渡辺 春男

食品加工産業、スーパー、小売店など、さまざまな営業形態の食品物流に対応し、大阪八尾市を中心に業務の幅を拡大してきた。年中無休の納品を可能にしたドライバー交代システム、24時間体制スケジュールによる運送など、独自のきめ細やかなシステムが自慢。低公害車導入の経緯をお話いただいた。

環境への配慮は世の中への恩返し

昭和58年、現代表取締役である山下氏が個人営業で開業した『赤帽山下運送店』が同社の出発点だ。

「お客様の顔が見える運送が、弊社の基本にあります。当初は、食品や雑貨などを扱っていました。会社の収入がさらに安定するにはどうしたら良いかを考え、365日運送するものがある食品にシフトしていったのです。」

食品関係には環境意識の高い荷主が多い。CNG車でなければ納入を許可しない荷主もいる。有機野菜の配送には、環境に配慮した車両が良いという山下社長の判断もあった。また、状況としても厳しい競争下であり、他社との差別化を図り、顧客のニーズへ対応するため低公害車を導入したのだそうだ。

最大のメリットは“元が取れた”こと

「CNG車の第一印象は、エンジンがかかっているのかなと確認したほどの静かさでした。」と山下社長。配送先は住宅地が多く、車両の稼働時間も早朝となることもあるため、エンジン音が静かであることは、荷主はもちろん、配送先にも好評であった。ディーゼル車での早朝運行においては、騒音が問題となることもあるが、CNG車の配送コースでは、騒音へのクレームが発生しないため、大きなメリットになったという。また、ディーゼル車と比較し、匂いがないのも驚きであったそうだ。

「病院や小学校など、荷主が喜ぶのではないかともしました。先ほども申し上げたように、弊社の基本はお客様の顔が見えること。これまで、商品の並べ出しをする販売店の苦勞など、食品産業の厳しさを見てきました。物を届けることはもちろん、少しでも早く、トラブルなく、担当の方へ納めるのが仕事であると考えています。だからこそ、お客様に喜んでもらえることをしたいと意識が働くのです。」

まず、お客様の喜ぶ顔が目につくという山下社長には、顧客主義の理念が染みついているのであろう。この厳しい時代に好調な業績を上げる同社のエネルギーの源は、こんなところにあるのかもしれない。

「故障がないのも良いですね。コスト的にもメリットがありました。初期費用投入は免れることはできませんが、元は取れています。」

デメリットについて何うと、補助金はあるものの、基本的な車両価格がディーゼル車に比べ高額であること、インフラ整備が不十分であることを挙げられた。

「元は取れたと申し上げましたが、やはり安価なものではありませんので、導入を躊躇する事業者も少なくないと思います。」

特にCNG車については充填所の場所と配送ルートを検討し、近距離配送であれば問題ないことを検証したうえで導入を決めた。

「長距離運送に関しては、CNG車を導入したく

でも、充填所の面で妨げになっていることもあると思います。弊社は比較的、近距離配送が多いので、大きなデメリットにはなっていないのですが、長距離運送を中心としている運送業者にとっては、大きな壁になっているのではないのでしょうか。」

充填においては、充填時間がかかることもデメリットだという。ただ、今すぐ解決できる問題ではないため、他社とは違う時間帯を選ぶなどの対策で対処しているようだ。

「僭越ながら要望させていただけるのであれば、やはり、車両購入価格のさらなる低コスト化ですね。1台でも多く普及するような施策を進めてほしいと思います。地域、国、メーカー一体となった取り組みを期待します。」

誰もやっていないことをやるのが成功の鍵

八尾市では「八尾市グリーン配送推進協議会」を設立し、大気汚染や地球温暖化を防ぐため、エコドライブの実践や配送の効率化の推進に取り組んでいる。協議会は市民、事業者、行政で構成されており、LEVOもメンバーとなっている。CO₂排出量の少ない車両の導入に努めており、協議会の啓発ステッカーを配布。同社のCNG車にはこのステッカーを貼付し、協議会の活動に協力している。

「平成12年に低公害車を導入して以来、継続して導入し続けてきました。八尾市も推奨していますし、会社の方向性としても低公害車を引き続き導入していきます。」

運送事業者において、輸送の安全、効率的な配送の提案、品質の向上は必須条件だが、他社との差別化のために、それ以外の取り組みが必要であると考えているという。



低公害車を導入している業務の現状について説明を受けるLEVO担当者

「地球温暖化や異常気象を考えると、地球にやさしく、地域にも優しい環境対応企業として努力することが必要です。ひいてはそれが荷主へのサービス向上につながると思うのです。これが一つの差別化の材料。低公害車を導入し続け、環境に配慮した経営を実施していきます。」

特に食品輸送は、エンドユーザーに近い配送である。環境意識が高まっている一般消費者に対し、荷主が環境にどう配慮しているかをアピールすることも必要。そして環境負荷軽減を意識した運送事業者の利用が、荷主の企業努力をサポートすることになり、荷主・同社の評価にも繋がるという考えだ。

環境に配慮し、高品質の配送を心がけている同社の秘密兵器を紹介してもらおう。

「15年前から無線を装備して、リアルタイムにドライバーと交信できるようにしています。」

現在は全車両に無線を増備している。配達途中の急な依頼や渋滞の回避情報を、運搬管理センターから即座に連絡。荷主の要望に迅速、的確に対応できる体制をとっている。

「当時、携帯電話は高額だったので無線を導入したのですが、今となってみれば、通話もできる無線でよかったと思っています。」

今後は日本一の運送会社を目指すという。

「誰もやっていないことをやるのが好きなので。そして決して諦めないことが必要。これまでも、“モノ”を運ぶのではなく“人から人へ思いを手渡し”してきました。その思いが、この人をお願いして良かったと思っていただけたのではないのでしょうか。これからも諦めずに努力していきます。」



「八尾市グリーン配送推進協議会」の啓発ステッカーを入り口にも掲げ活動をアピール

大和陸運倉庫株式会社

《茨城県つくばみらい市》

代表取締役社長

吉栲 昌弘 氏 に聞く

聞き手：財団法人運輸低公害車普及機構
環境機器普及部 EMS 推進グループ
調査役 北村 真二



昭和26年創業以来、茨城県常総市など、県南エリアを中心に業務を拡大してきた同社。貸し切り輸送、引越し、小口貨物、保管・流通加工など、幅広いラインナップで多様化するお客様のニーズに答えている。電動フォークリフトの導入経緯などを伺った。

電気フォークを使いこなすプロを育成したい

同社が電動フォークリフトを導入したのは、平成7年のこと。5台から徐々に台数を増やし、平成21年にはリース契約で2台導入。現在、30台のフォークリフトのうち、20台が電動フォークリフトである。

「食品を扱っている倉庫に電動フォークリフトを導入しました。」と吉栲社長。顧客からの意向ももちろんあったが、我々は業界全体で排ガス規制に取り組んでいるのだと、力強く語ってくれた。

「当社は、先代の社長の頃から社会貢献を常に意識して会社を運営してきました。自分たちにできることは何か。その答えが環境に配慮することだったのです。」

顧客のひとつに大手ビール会社がある。缶やペットボトルなどの容器は殺菌され、ビニールなどで密閉した状態で入庫する。ビニールは、静電気などで空中の塵やほこりを吸着する性質があるため、倉庫内に粉塵があるなどということはもってのほかなのだ。

「容器は洗浄しないでそのまま使用されますので、限りなく無菌に近い形で納入したいのです。そこで排ガスの出ない電動フォークリフトを導入しました。環境にも優しい、お客様のためにもなる。導入は自然の流れでした。」

メリット・デメリット

「メリットは音が静かということですね。排気ガスは出ないし、電気使用量が少なくて済みますので、経済効果もありました。」

電動フォークでなければダメだという顧客は少ないのだそう。例えば、同社の低温倉庫で扱っている食品香料。香料はどんな匂いも塵も嫌うため、匂いのない電動フォークでなければならないのだという。導入して顧客からもさらなる信頼を得た。

「スタッフからも、小回りが利き使い勝手も良い。排ガスの匂いがないので良い。作業中のエンジン音がないのがうれしい。振動が少ないので乗っていて疲れにくいなど高評価を得ました。」



電動フォークリフトの導入について説明を受けるLEVO担当者



環境にもスタッフにも優しい電動フォークリフト

このように電動フォークは、顧客からの要望を満たしてくれるものであり、スタッフが働く環境向上にもつながるものでもある。

「デメリットはバッテリー交換に費用が掛かりすぎる。ブロックごとに交換できるようにするなど、改善を望みます。」

季節により、電動フォークリフトの稼働時間が変化する同社では、特に最盛期の充電には苦慮している。

「ピーク時には1日3回の充電が必要です。10時、12時、15時の休憩時に充電し、業務終了時には必ず充電しているか点検。充電し忘れが無いように確認してから帰宅しています。」

運用の仕方でも対応可能だが、充電時間が短縮されればと、吉榊社長。

「メリットでもデメリットでもないのですが、不思議なことがあります。アクセルをふかせば音が出ます。その音の強弱で馬力があるという感覚にさせられるような気がするのです。エンジンフォークリフトと電動フォークリフトの馬力はそれほど変わらないと思うのですが、電動フォークリフトの馬力がないと感じる方は、そんなところに理由があるのではないのでしょうか。」

人が会社の業績を上げる

環境に配慮した取り組みのひとつにデジタルタコグラフの導入がある。

「7年前に導入しました。数値管理をもっと徹底させたいですね。」

データを数値化し、A・B・Cランクで評価。指導し続けた結果、Cランクのドライバーはゼロ。Bランクも点数が低いドライバーはいなくなった。今後、全員Aランクを目指し、指導体制を整えたいという。

「改善してほしい点を早朝点呼と就業点呼時に指示しています。ですが指導は伝達するだけではダメなのです。対面で、体感できる指導をしなければ。そこで指導する側も改善点を洗い出しているところですよ。」

デジタル導入直後は、集計したデータをどのように生かしていったら良いのか試行錯誤していたそうだが、ヒントは意外なところにあったそうだ。

「リースで電動フォークリフトを導入したことで、データを集計し提出しなければならなかったのですが、このデータから経費節減などにつなげることができました。」

今後は、全フォークリフトのデータを収集・管理していくという。現場の質、管理者の能力を高めるためにも数値管理は必須だ。データ収集をして満足するのではなく、結果から何を導き出すのかが大切なのである。

「平成24年の目標は、現場のレベルアップです。機械を使って生産性を上げ、それを使う人のレベルを上げる。プロとして応用力を身につけてほしいと思っています。数字を作るのは人ですから。人が財産なのです。」

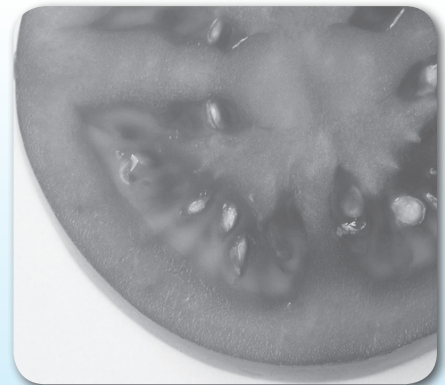
業界全体の業績が良くないと言われている時代に、黒字という結果を出している吉榊社長。今後はどのような改革に取り組んで結果を出していくのか楽しみである。

◆つくばみらい市の名物

脂肪燃焼効果があると大人気のトマト。スーパーマーケットなどで売切れ状態になっているところもあるとニュースになっているほどの注目ぶりだ。

じつはここ、つくばみらい市の特産品にもトマトがある。その名は「まっかなトマトっ娘」。環境に優しい農業に取り組むエコファーマーの認定をトマト生産者が県から受け、高いハウス栽培技術で作られている。甘味、酸味、うま味がバランスよくそろっているのが特徴。さわやかな甘さの後に、濃厚なトマト本来の味わいが広がり、あと味はさっぱり。そのままはもちろん、加熱しても風味が失われにくいので、スープやパスタなど、さまざまな料理に使ってほしい。

おすすめのレシピは味噌汁にトマトを合わせるもの。具は豆腐、油揚げなどシンプルに。ミョウガまたはタマネギのみじん切りをトッピングしてもいい。ぜひお試しを。



LEVOからのお知らせ

★ 一般財団法人運輸・交通SAS対策支援センターが発足 ★

運輸・交通等の事業に従事する皆様が、環境問題に加えて大きな課題としている安全性向上（事故防止）の問題に取り組むため、平成23年度9月に一般財団法人運輸・交通SAS対策支援センター（略称：「SAS対策支援センター」）が、LEVOの支援のもと発足しました。

当センターでは、睡眠時無呼吸症候群（SAS）に関するスクリーニング検査を中心に、ドライバーの方々の健康維持、管理に関する情報発信や啓発活動を通じて、交通事故の軽減、防止を図り、安全性の向上に寄与することにより、人と環境にやさしい社会形成を目指していきます。

★SAS（睡眠時無呼吸症候群）とは

睡眠時無呼吸症候群（SAS）とは、睡眠中に何度も呼吸が止まってしまう病気*です。最も多いケースとされる「閉塞型」は、舌がのどの奥に沈下してしまい、気道が塞がれていて呼吸が止まったり止まりかけたりする状態になります。

※医学的には、呼吸が10秒以上停止する無呼吸の状態が一晚の睡眠中に30回以上生じるか、睡眠1時間あたり無呼吸が5回以上生じ、かつ自覚症状を伴うものをいいます。

★SASが原因とされる交通事故

呼吸の停止、苦しくなって大きないびきをかく、この状態を睡眠時に繰り返すので、脳も体も十分に休息できないため眠りが浅くなり、昼間激しい眠気に襲われ集中力を欠き、運転能力の低下と居

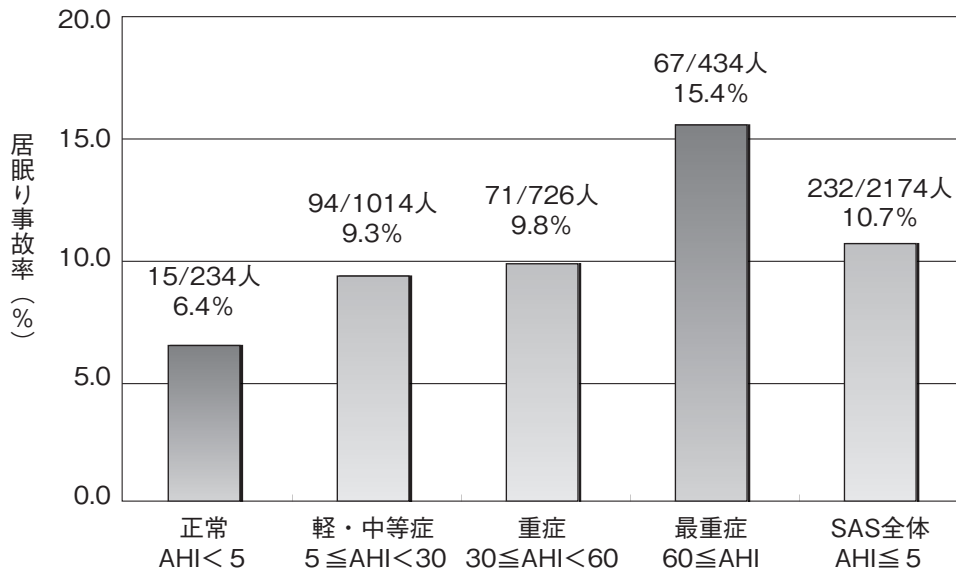
眠り運転を誘発します。愛知医科大学病院睡眠医療センターの調査結果では、SASの重症度の悪化にともなって居眠り運転事故率が高くなることが報告されています（表1）。

また、SASにより睡眠中の呼吸停止と再開が繰り返されるため、血圧が上昇し、高血圧、糖尿病、狭心症、心筋梗塞、脳卒中など重大な合併症を引き起こすリスクが高まります。従って、ドライバーにとって安全運転上のみならず、健康管理面からもSASの早期発見、早期治療が重要です。

★SAS対策は事業所ぐるみで取り組みを

事故が起きてから「実はSASだった」と判明する例は少なくありません。事故を起こしてしまうと自身や家族だけでなく、社会にも大きな損害を

表1 SAS重症度と居眠り運転事故率



*AHI(「無呼吸低呼吸指数」と同義)

1時間当たりの無呼吸(呼吸停止)及び低呼吸(呼吸の量が減少)の回数

出典：睡眠障害と安全運転に関する研究調査報告書（警察庁）より
（愛知医科大学病院睡眠医療センター調べ）



与えることとなります。取り返しがつかなくなる前に、SAS対策の重要性をドライバーも事業者も認識することが重要です。

SASであるかどうかは簡単な検査で診断することができ、効果的な治療方法も確立されています。まず、スクリーニング検査から取り組みをスタートさせることが、安全な運行管理の第一歩となります。

(1) SASスクリーニング検査

SASスクリーニング検査とは、睡眠時の呼吸の状態をモニタリングし、SASであるかどうかを判定する簡易的な検査です。当センターでは、睡眠中の酸素の血中濃度を測定するパルスオキシメトリ法を用いています（写真）。

これは、指先につけたセンサーにより睡眠中の動脈血の酸素量をモニタリングし、睡眠中の無呼吸や低呼吸に伴う酸素量の低下回数から呼吸障害の程度を客観的に把握します。自宅における日常環境での測定が可能で、鼻からの気流を測るものではないため、アレルギーの方や鼻づまりの場合でも測定できます。

(2) スクリーニング検査のながれ

- ①当センターのホームページからインターネットのオンラインによる申込みを行うか、「検査予約申込書」をダウンロードし、FAXによる

申込みを行います。

- ②検査申込の確認後、当センターから検査費用請求書が郵送されますので、検査費用をお支払い（振込）いただきます。

検査料金（税込）：5,000円／人

- ③検査費用の振込後、「スクリーニング検査申込書兼委任状」に必要事項を記入し、申込者全員の署名・捺印のうえ当センターまでご郵送いただきます。

- ④検査費用の入金、申込書の確認後、当センターから検査機器、問診票等が送付されます。

- ⑤検査機器を装着して一晩の睡眠状態を記録し、検査機器、問診票に必要事項記入のうえ当センターまでご返送いただきます。

（*返送費用は申込者負担となります。）

- ⑥検査データの分析、評価、判定を専門医に依頼し、検査結果が送付されます。

（*専門医：東京大学医学部附属病院 所属）

判定結果において、中等度あるいは重度の睡眠障害の疑いがある場合、当センターでは専門の医療機関を紹介し、精密検査の実施を勧めています。

★トラック協会から助成が受けられます

平成24年度から当センターは、公益社団法人全日本トラック協会のスクリーニング検査・医療機関に指定されました。トラック協会の会員事業者は、検査実施に対する助成金が受けられます。詳細については、各地方トラック協会担当窓口にお問合せください。トラック協会等助成金申請に必要な書類等は、お申し出に従い用意します。

新たにスタートしましたSAS対策支援センターを、運輸・交通等の事業に携わる皆様が奮ってご活用いただきますよう、センター職員一同心よりお待ち申し上げます。

一般財団法人 運輸・交通SAS対策支援センター



* SASスクリーニング検査等についてのお問合せ先

一般財団法人運輸・交通SAS対策支援センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル6F

電話番号 03-3359-9010

また、詳しくはホームページもご覧ください。

<http://sas-support.or.jp>（「SAS対策支援センター」で検索）

読者の投稿写真



「カタクリ」足もとで上品に



「神代梅尽くし」1ヶ月遅れの春



チューリップ「春の行列」昭和記念公園にて



「春うらら」春の青空の利根川土手の菜の花



「しだれ桜」ソメイヨシノより遅く咲くサクラ



休耕田に植えられた「ポピー」

*ニュース LEVO では読者の皆さまの投稿写真を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

ニュース **LEVO**
2012. No.49
(春号)

発行：一般財団法人環境優良車普及機構
発行日：2012年4月25日

〒160-0004 東京都新宿区四谷2丁目14番地8 YPCビル
TEL. 03(3359)8461(代表) FAX. 03(3353)5439
<http://www.levo.or.jp> E-mail: info@levo.or.jp